

ACORN・国際穀物メジャーとの取り組みから

ソリダリダード・ジャパン×シンク・ネイチャー共催 連続セミナー2026 第1回
Scope3・FLAG対応策は既にある ～ 優先すべき生産地の科学的特定と協働実装 ～

藤原 2026.8.24



本日お話しする内容と自己紹介

- ソリダリダードに何ができるのか？
- 事例1：農民への直接支払い可能としたAcorn
- 事例2：企業ニーズを農家が実行できるように翻訳したセラードの持続可能な大豆栽培
- 事例3：農家のデータ主権を尊重することでデータ流通を可能としたコロンビアのパーム油生産
- 生産地での「実装」と「協働」を担うパートナー・道先案内人としてのソリダリダード



企業でのESG・生産地での実践

- キリンググループ環境ビジョン策定
- スリランカ紅茶の農園へのRA認証取得支援
- 椀子ヴィンヤード生態系調査
- TCFD開示、TNFD開示



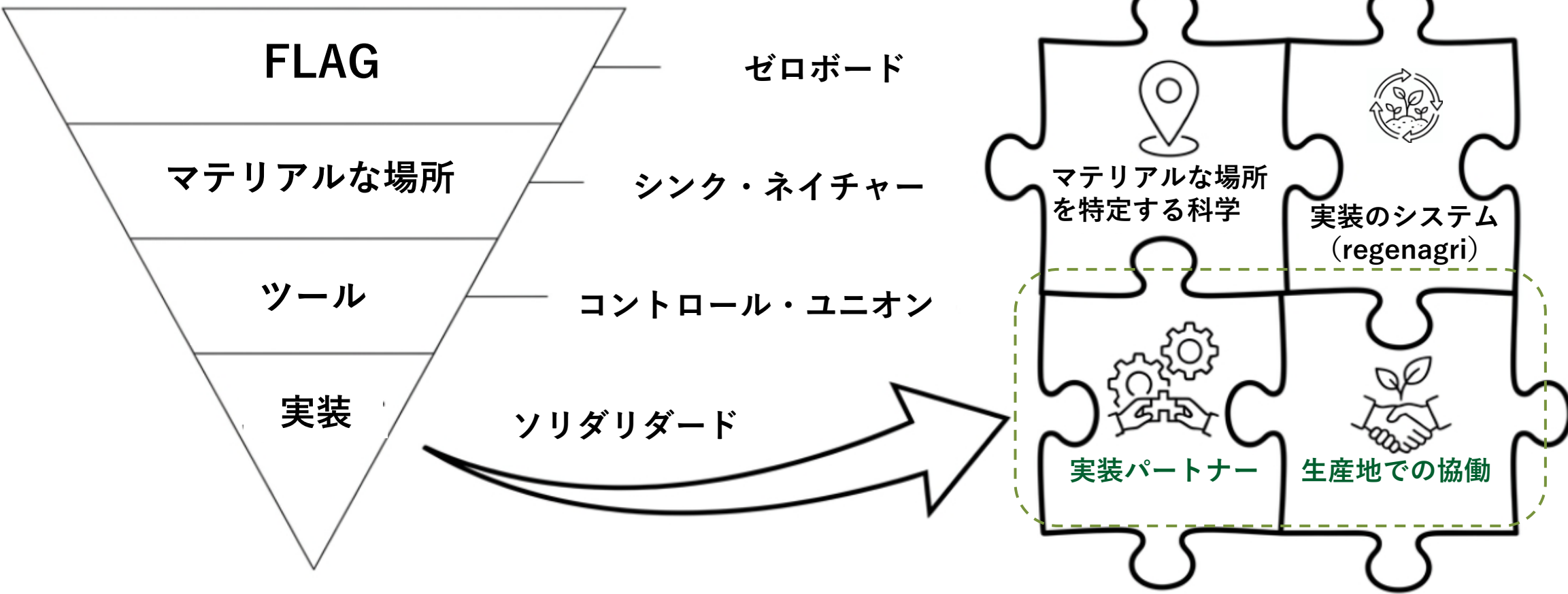
企業と生産地の接続

- 東北大学COI-NEXT ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点客員教授
- 国立環境研究所自然循環領域客員研究員
- 国際NGOアースウォッチ・ジャパン理事
- ソリダリダード・ジャパン アドバイザー
- ゼロボード ゼロボード総研客員研究員
- シンク・ネイチャー アドバイザー

FLAG対応に必要な要素は揃っている

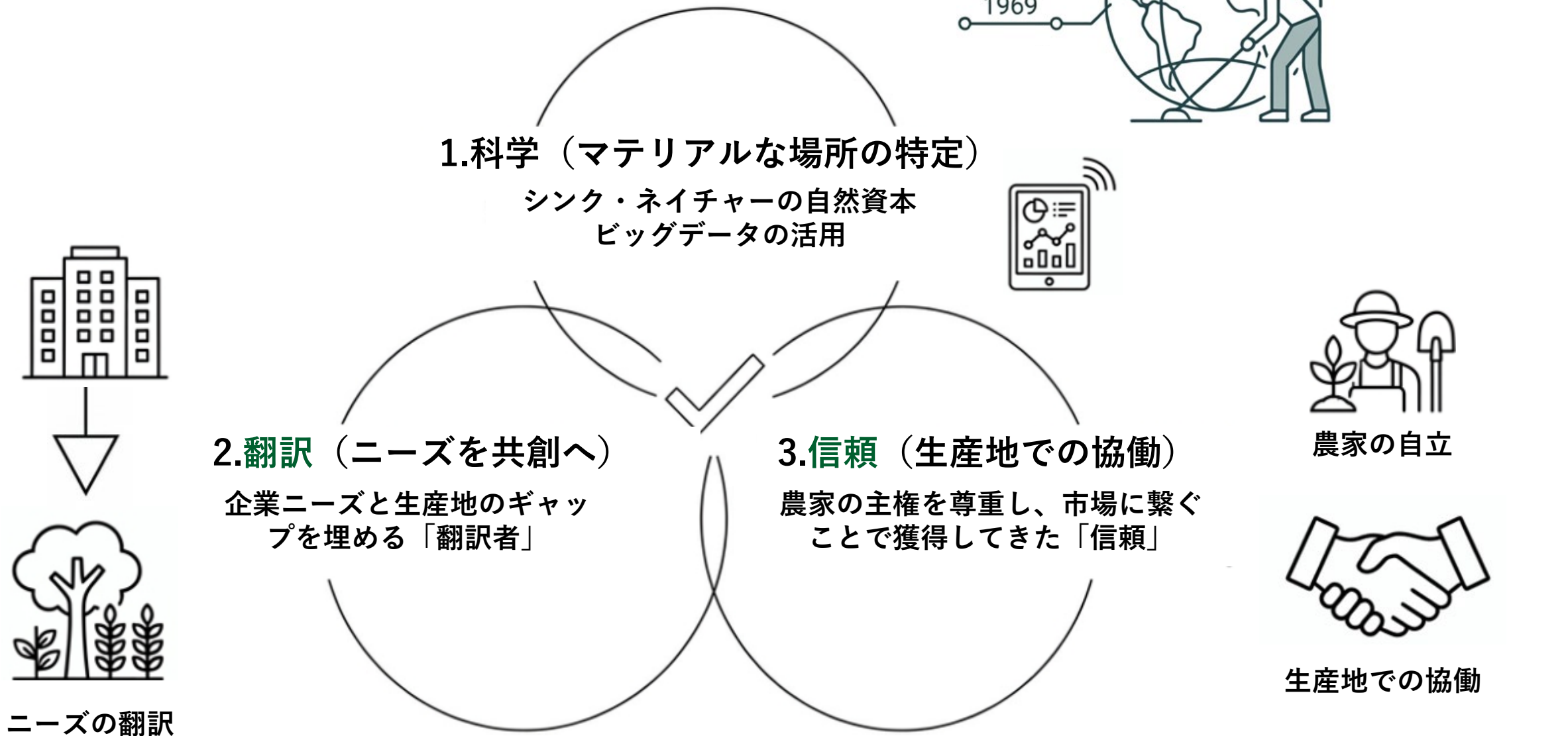
～ 科学・ツールは揃っており、あとは「伴走パートナー」と「現場協働」 ～

本日の講演の振り返り



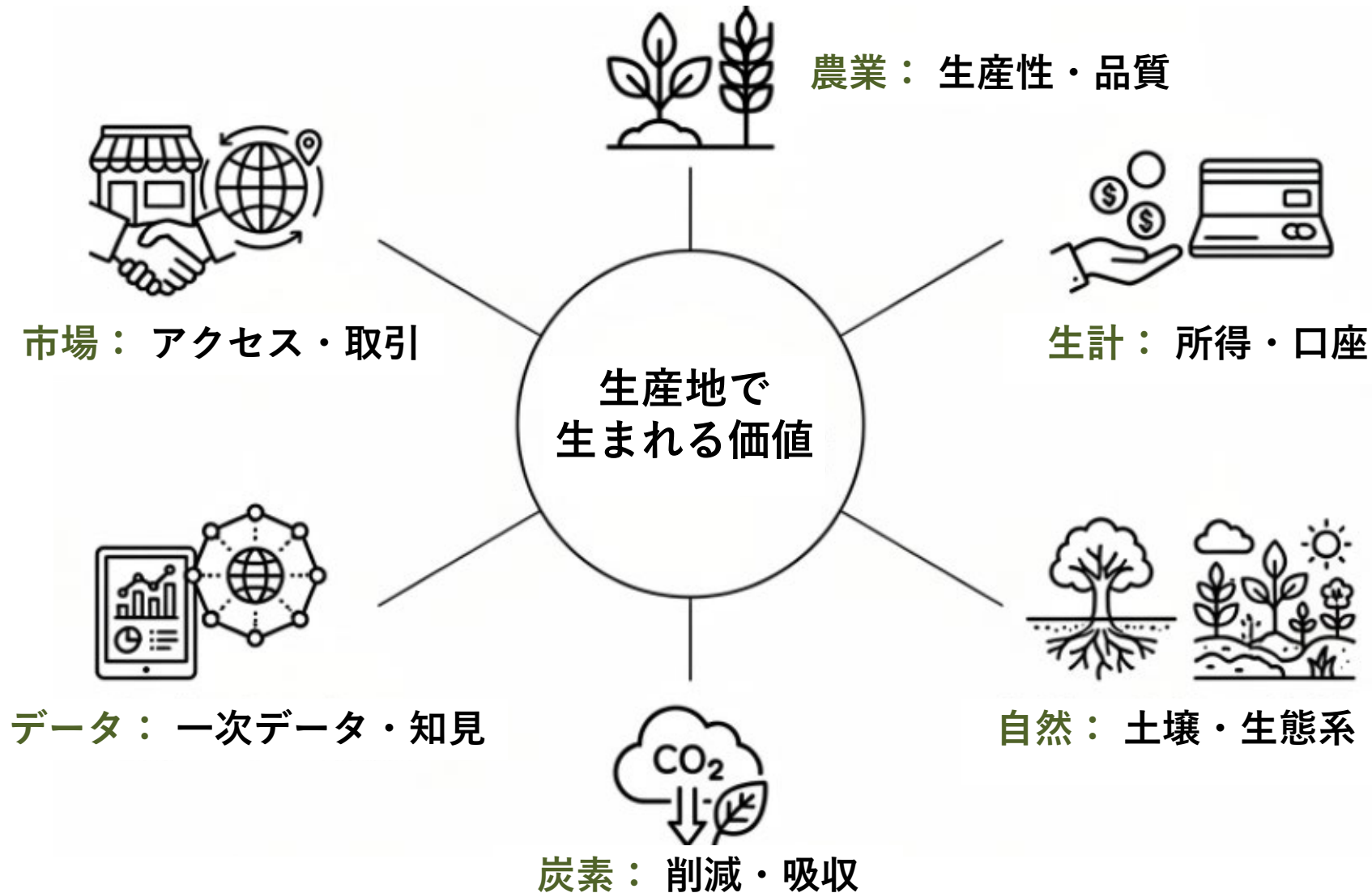
ソリダリダードに何を提供できるのか？

～ Farmers Firstの実践から生まれる「翻訳」と「信頼」 ～



では、生産地と何を分け合うのか？

～ FLAG対応を自然回復と価値分配の機会にする ～



FLAG対応は、生産者を「排除」するのか、「包摂」するのか

～ 一次データ取得に伴う調達リスクとインクルージョン～

データ開示に関する要求

【規制・市場】
EUDR、Scope 3、FLAG等の厳格化



【企業】
「平均排出係数」から「より精度の高いデータ」への移行



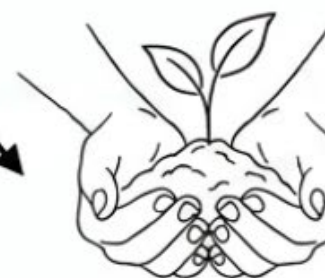
【現場】
小規模農家に対するデータ提出圧力の急増

厳格なデータ追跡
の要求



排除(Exclusion)

データ未整備を理由にサプライチェーンから締め出され、経済的孤立へ。供給源の極端な偏りと価格高騰リスク



包摂(Inclusion)

小農園支援によるネイチャーポジティブの両立。レジリエンスの高い持続可能なサプライチェーン

3つの実装事例

～ インクルージョンとアウトカム ～

事例1：小規模農家支援による実装事例



ACORNプラットフォーム

事例2：利害調整を超えた共創事例



セラードでのランドスケープ・アプローチ

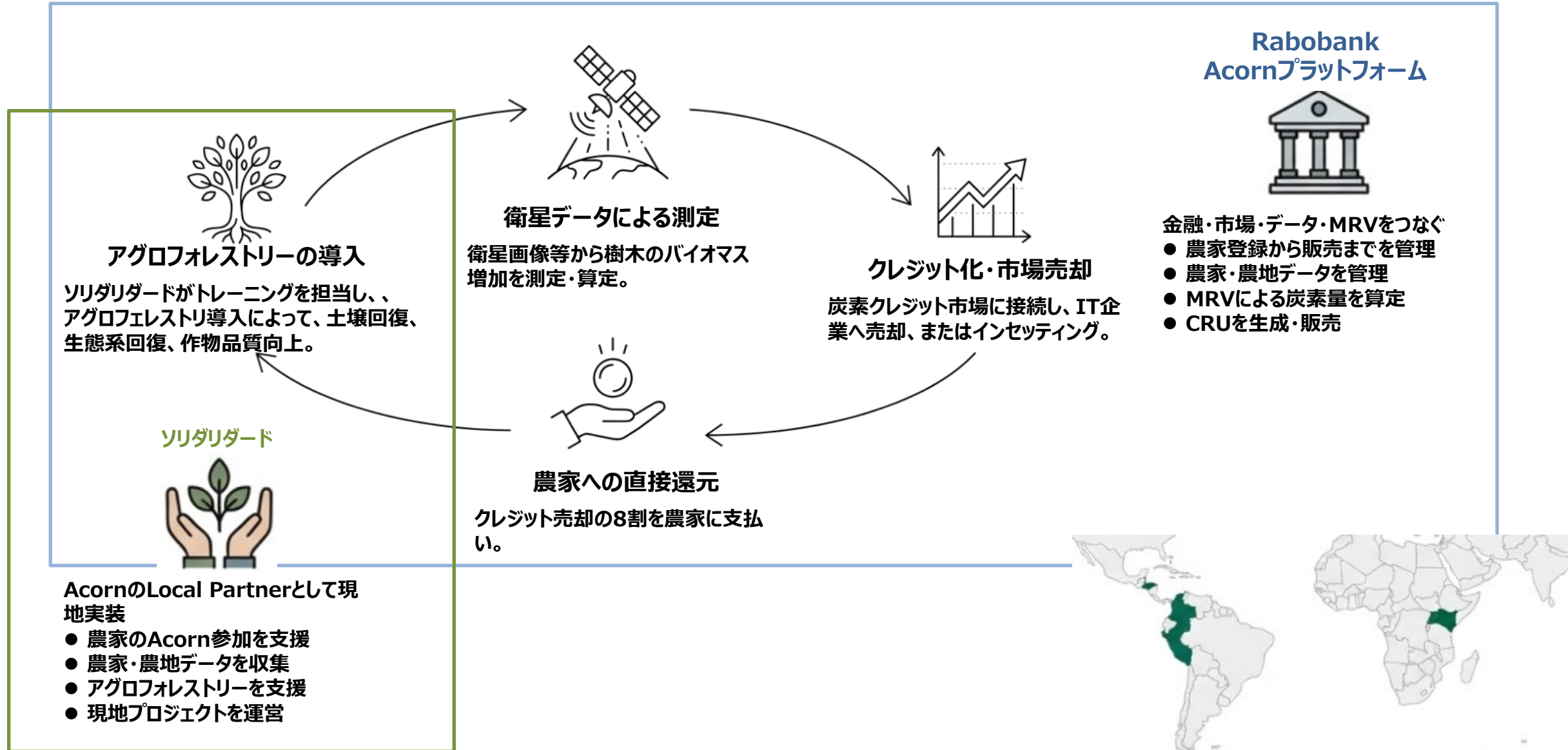
事例3：土地由来データの適切な管理と活用事例



コロンビアでのデータ共有

事例1：農民への直接支払い可能としたAcorn

～ 持続可能な農業で炭素クレジットを創出し、その売却益を農民へ直接支払い ～



事例2：セラードでのランドスケープアプローチ

～ 競合である穀物メジャーによる共創と現場への翻訳 ～

ブラジル・セラード地域の大豆生産を対象とした穀物メジャーによる協働プラットフォーム

Soft Commodities Forum (SCF) ※

WBCSDが設立しブラジル・セラード地域
の大豆生産を対象とした穀物メジャーによ
る競争前協働プラットフォーム

Cargill Cargill

ADM ADM

LDC

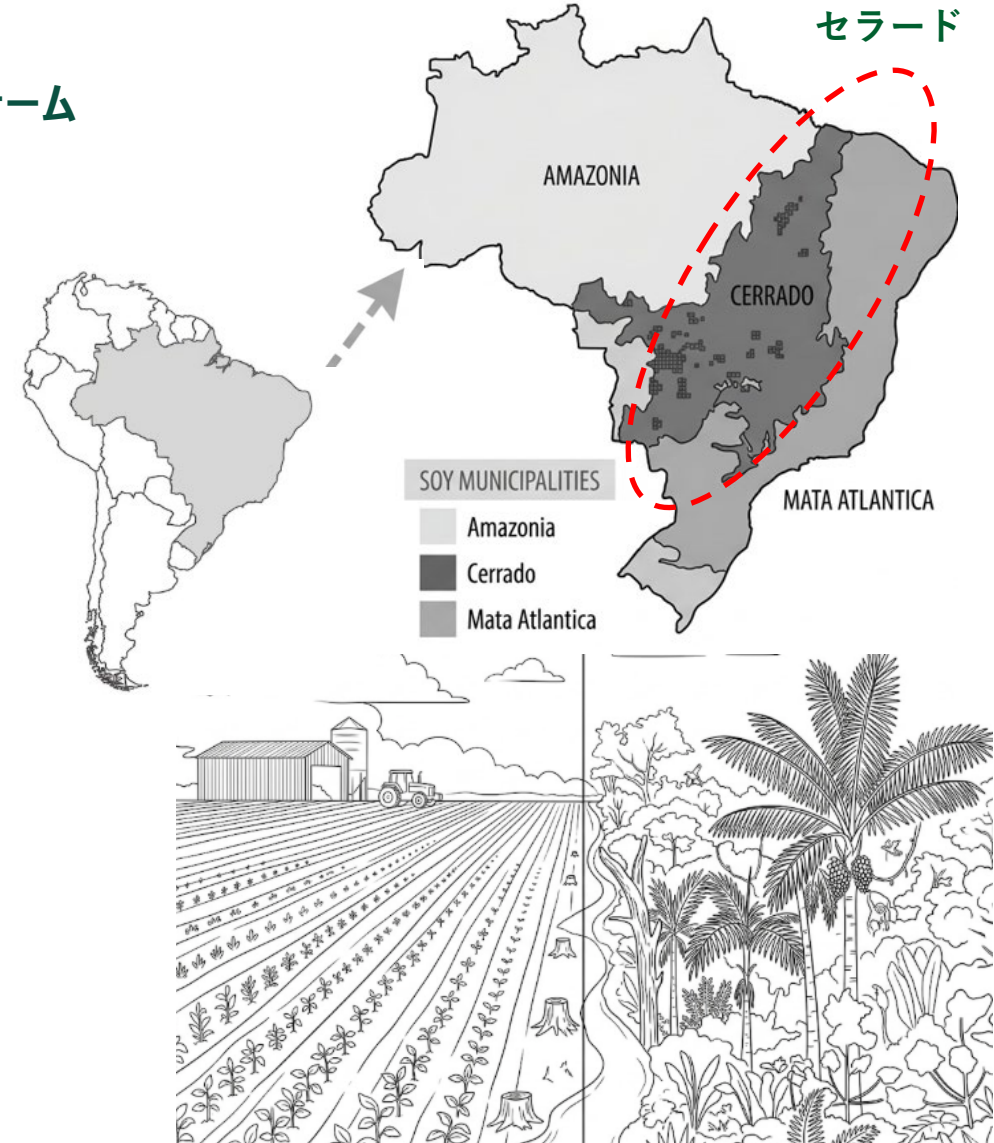
Bunge BUNGE



Solidaridadは

穀物メジャーが求めるサステナビ
リティ条件を、農家が実行可能な
形に「翻訳」する現場パートナー
として活動

※ この他、COFCO Internationalも参加。
過去に、Glencore Agriculture/Viterraが参加していた時期もあります。



事例3：地域の仕組みを活用するコロンビア・パーム油の事例

～ 現地アプリを活用した土地由来データの活用 ～



Cenipalma
(コロンビア全国パーム油生産者同盟
Fedepalma が設立した研究機関)
GHG算定手法・技術支援



「科学的ロジックとアプリの提供」



「一次データの取得」

「サプライチェーンへの
実装・投資」



Cargill

資金供給と市場アクセスの提供

「データ提供」

Ecopalma App

土地由来データ入力・
GHG算定ツール

「測定結果のフォードバック」



小規模農家

農園の一次データの入力

「より良い農業実践へ技術支援」

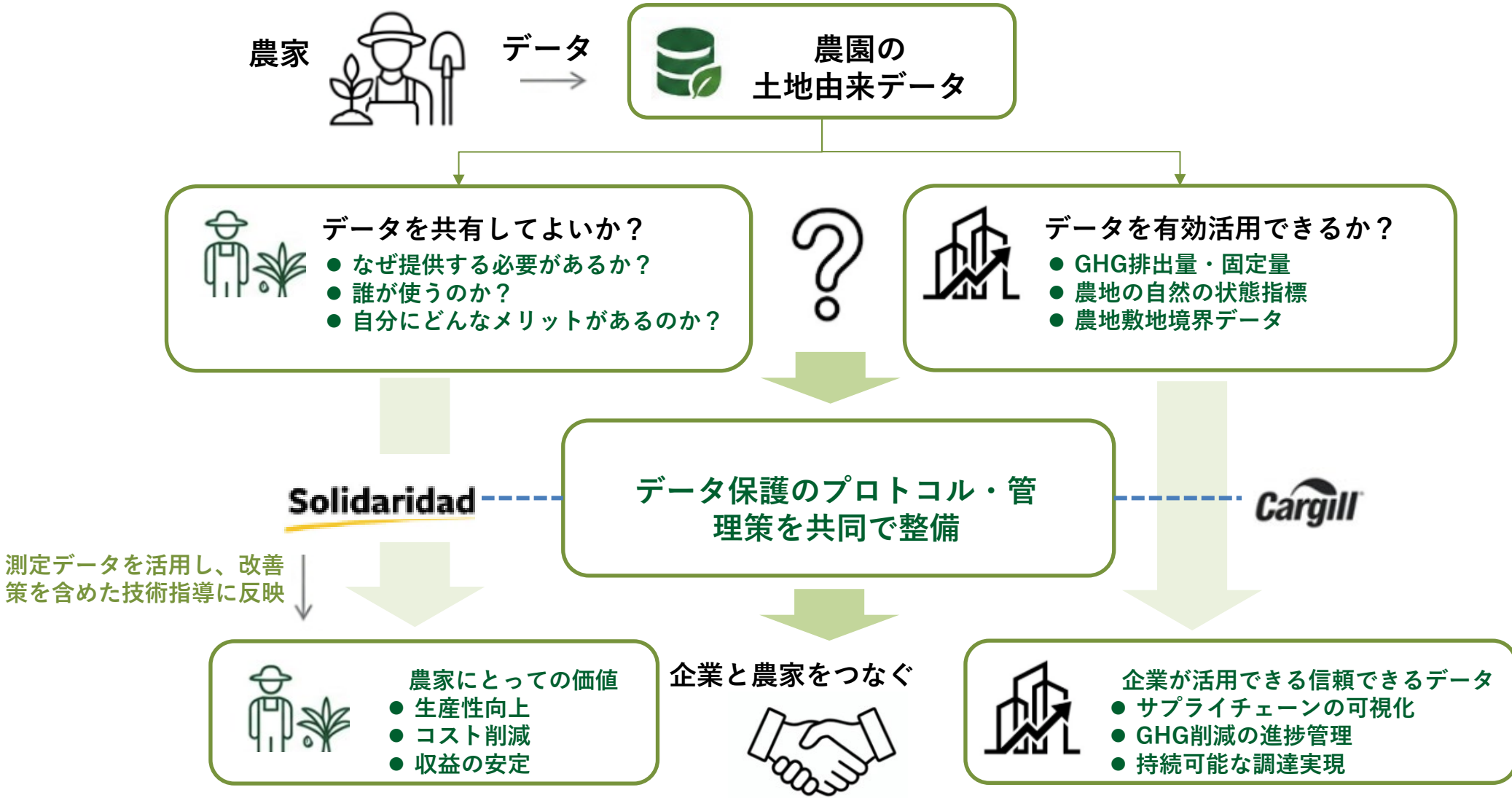


Solidaridad

現場実装と農家支援

コロンビア・パーム油事例における地域のエコシステム

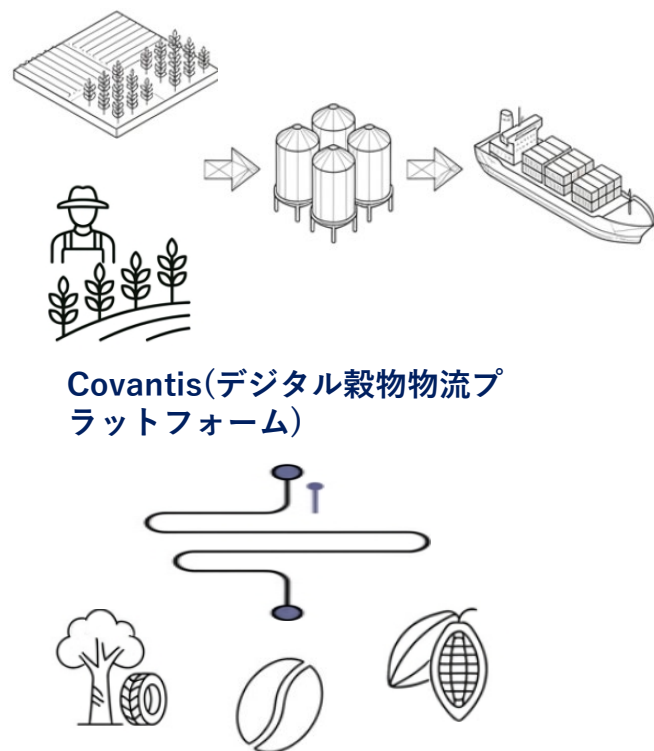
～ 農家のデータを、企業と生産地の双方の価値につなげる ～



「現物」と「データ」が結びつき、新しい価値を生む

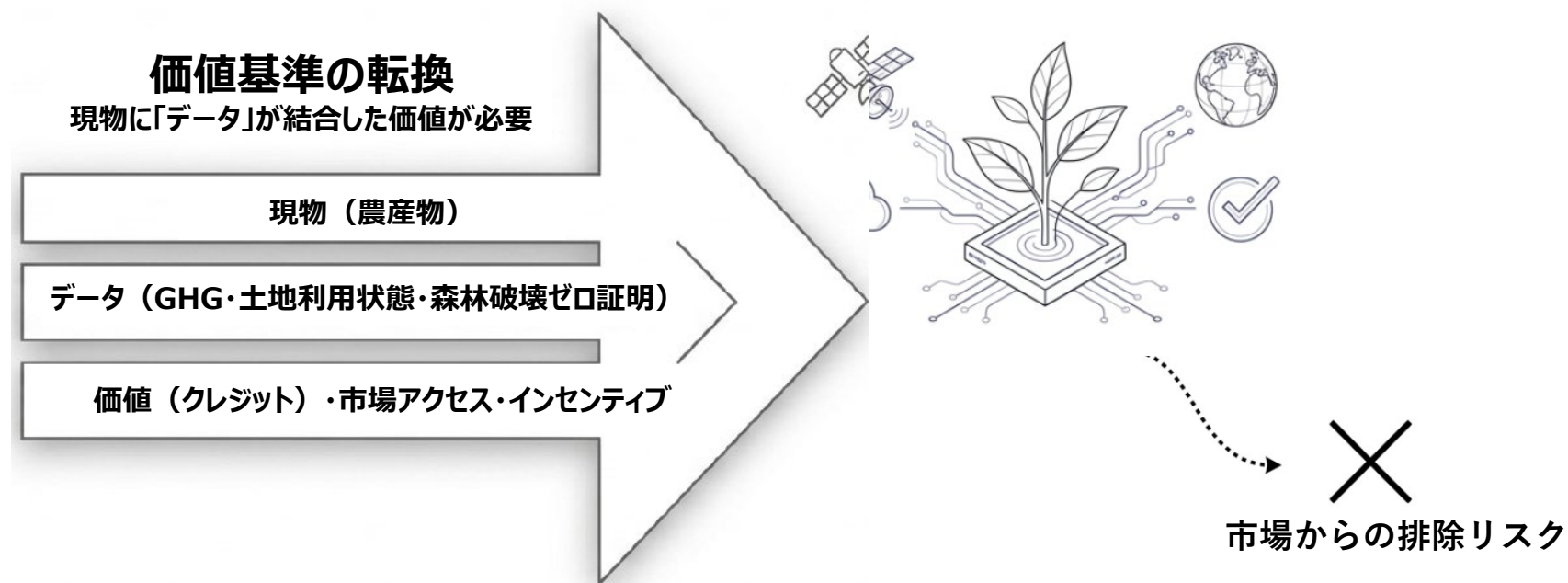
～ 信頼に基づくパートナーシップがもたらす市場アクセス ～

Physical Flow(現物の流れ)中心



従来の国際貿易では「いかに大量かつ低コストで運ぶか」が競争力の源泉。現物を保有していれば価値があった。

Data Flow(データの流れ)が価値を左右する

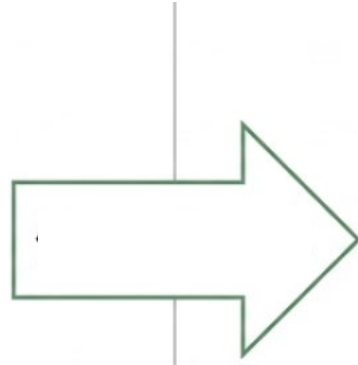


現在は「どこの農地で生産されたか」「森林破壊がないか」「GHG排出量はいくらか」という監査可能な環境データが、取引条件や市場アクセスそのものを決定する。

自前主義・データ「利用」から「参画」へ ～ データ植民地主義を回避し価値を還元する発想転換へ ～

従来の思考

自社システムの構築と「データの利用」



これからの戦略

地域エコシステム構築への「参画」



企業の視点

- ゼロからの自社ITシステム構築による莫大なコストと時間の浪費。
- 地域に貢献せず、一次データだけを搾取する構造。
- データ植民地主義と捉えられるリスク。

生産地の視点

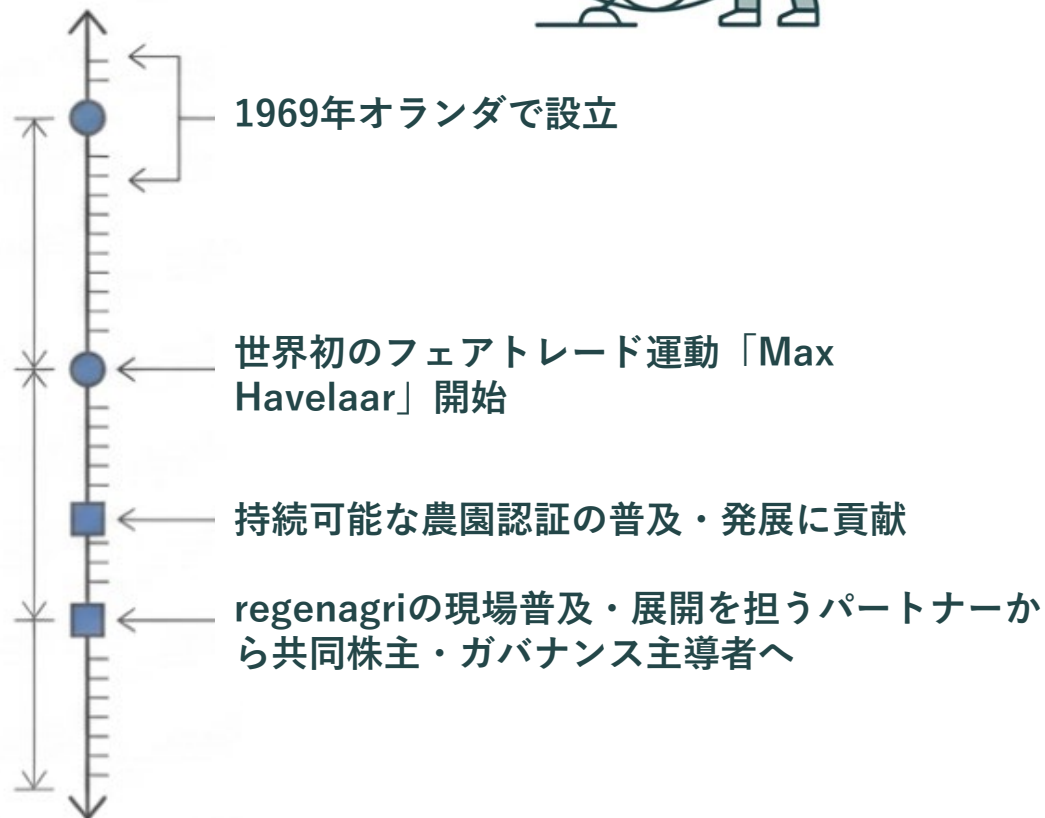
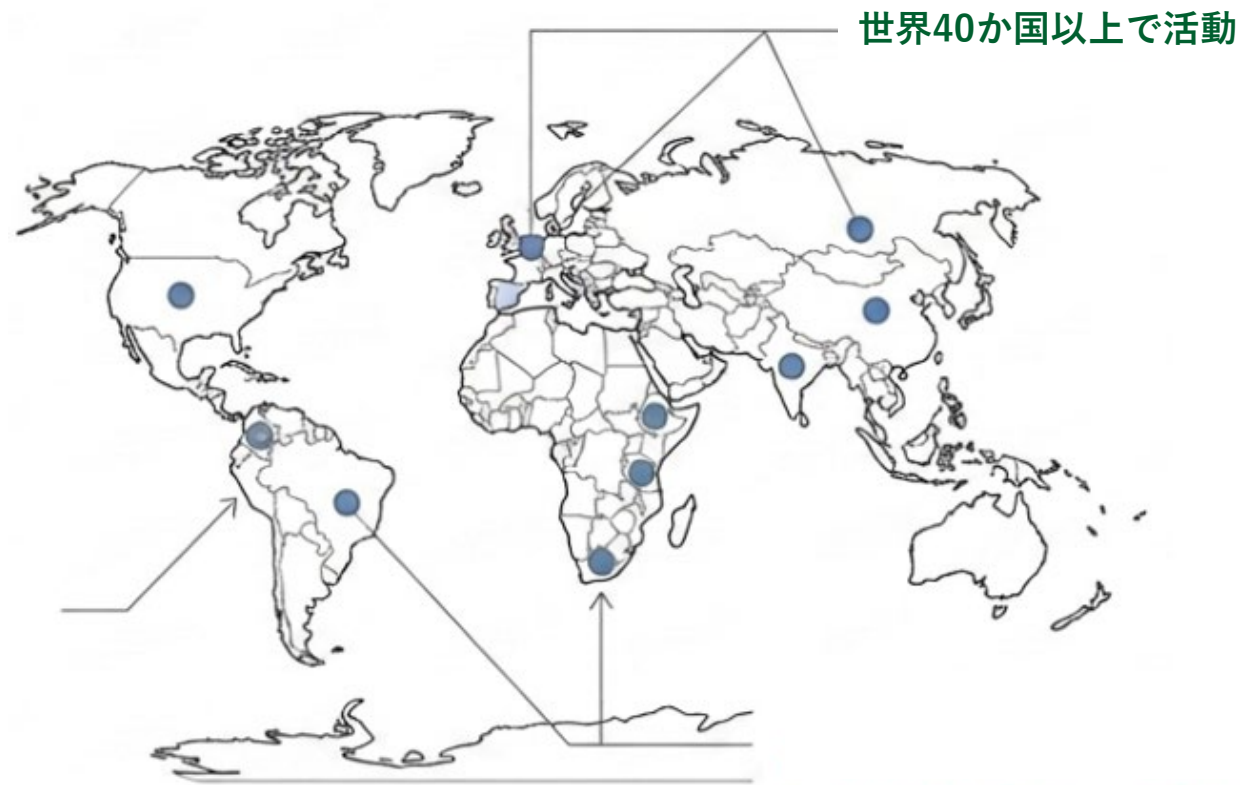
- 地域主体で構築された共通データ基盤への乗り入れ。
- データ主権(Data Sovereignty)を尊重した継続的な高解像度データの確保。
- 農家への価値還元を通じた、強靱なサプライチェーンの構築。

FLAG対応の場所特定・実装方法、そのパートナーは既に揃っている

～ 生産地に向かい、一緒に生産地で価値を作りましょう ～



農家約97.5万の農業収入が向上、280万ha以上の農地で持続可能な農業を実践※



Scope3・FLAG対応策は既にある

Q & A

ご清聴いただき、ありがとうございました。

